

PATENT APPLICATION

22

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of

Kenji JINBO et al.

Group Art Unit: Unknown

Application No.: 10/718,800

Examiner: Unknown

Filed: November 24, 2003

Docket No.: 116765

For: MIXING AND DISCHARGE DEVICE

CLAIM FOR PRIORITY

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

The benefit of the filing dates of the following prior foreign applications filed in the following foreign countries is hereby requested for the above-identified patent application and the priority provided in 35 U.S.C. §119 is hereby claimed:

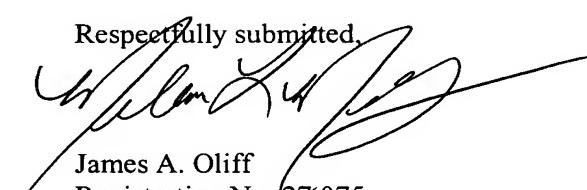
JP 2001-193906, filed June 27, 2001 in Japan; JP 2001-193907, filed June 27, 2001 in Japan;
JP 2001-304104, filed September 28, 2001 in Japan and JP 2001-304105, filed September 28, 2001 in Japan.

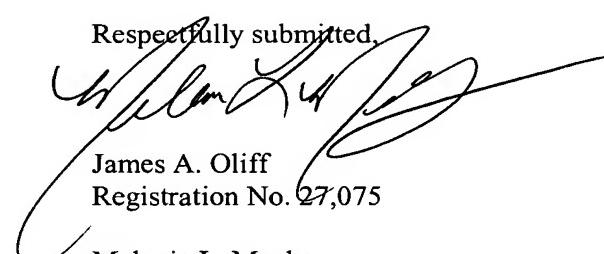
In support of this claim, certified copies of said original foreign applications:

are filed herewith.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the requirements of 35 U.S.C. §119 have been fulfilled and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of these documents.

Respectfully submitted,


James A. Oliff
Registration No. 27,075


Melanie L. Mealy
Registration No. 40,085

JAO:MLM/jam

Date: December 24, 2003

OLIFF & BERRIDGE, PLC
P.O. Box 19928
Alexandria, Virginia 22320
Telephone: (703) 836-6400

DEPOSIT ACCOUNT USE
AUTHORIZATION
Please grant any extension
necessary for entry;
Charge any fee due to our
Deposit Account No. 15-0461

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2001年 6月27日
Date of Application:

出願番号 特願2001-193906
Application Number:

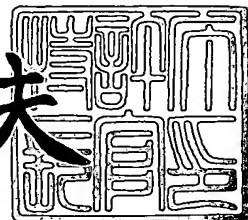
[ST. 10/C] : [JP2001-193906]

出願人 カネボウ株式会社
Applicant(s): 株式会社吉野工業所

2003年12月10日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 00-12-37

【提出日】 平成13年 6月27日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B65D 83/14

B65D 83/30

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県小田原市寿町 5-3-28 カネボウ株式会社
化粧品研究所内

【氏名】 神保 圭治

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3-20-20 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 濱田 知実

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3-20-20 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 石川 桂子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3-20-20 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 青木 芳恵

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島 3丁目 2番 6号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 角田 義幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 當麻 徹

【特許出願人】

【識別番号】 000000952

【氏名又は名称】 カネボウ 株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 000006909

【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所

【代理人】

【識別番号】 100076598

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡辺 一豊

【電話番号】 03-3382-6771

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009162

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 注出容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 頭部(20)の上面中央に開閉機能付きの注出ノズル(21)を起立させて構成され、左右に並列に隣接組合せされたエアゾール式容器である容器体(19)の一対と、該一対の容器体(19)の上端部に外嵌する外装筒(2)の上端に連設された頂板(4)の中央に、前記注出ノズル(21)が突出する開口部(5)を開設すると共に、前記頂板(4)の上面にガイド片(7)を立設して構成され、前記一対の容器体(19)の上端部に不動に外装する装着体(1)と、前記注出ノズル(21)が密嵌入して突き当たる一対の段付き孔(11)を下面両側部に開設すると共に、上面中央に注出筒片(12)を立設し、該注出筒片(12)が形成する注出口と前記両段付き孔(11)とを連通させる注出路(10)を内部に形成した押圧ブロック(9)を有し、該押圧ブロック(9)の一部に、前記ガイド片(7)が上下に摺動変位可能に遊嵌するガイド孔(13)を開設すると共に、前記押圧ブロック(9)の前後面の中央に、前記外装筒(2)の外表面に沿って垂下する一対の垂下操作片(15)を設け、該垂下操作片(15)の前記外装筒(2)の下面縁の一部である当接下縁に対向する内側面箇所に、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面(18)を前記外装筒(2)の当接下縁に摺接させる摺接突片(17)を突設した操作体(8)とから構成され、該操作体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、前記外装筒(2)の当接下縁に対向する傾斜ガイド面(18)の箇所を、少なくとも上位に、前記注出ノズル(21)を開状態とすることができる高さ分を有する位置に設定して成る注出容器。

【請求項 2】 外装筒(2)の前後表面のそれぞれに、操作体(8)の垂下操作片(15)の両側に近接して位置し、突出端を、前記垂下操作片(15)の外表面よりも外方に位置させる突出高さを有する縦突条状の一対の支え突片(3)を設けた請求項 1 記載の注出容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、一対のエアゾール式容器から同時に内容物を噴出させると共に、こ

の両噴出内容物と一緒に注出する注出容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

例えば、或る種の染毛剤のように、2種の薬液を使用時に一緒に注出するタイプのもので、薬液を個々にエアゾール式容器に収納し、使用時に、この一対のエアゾール式容器から内容物である薬液を同時に噴出させると共に、この噴出した薬液と一緒に一か所から注出する容器として、特開平4-102569号公報に開示された技術がある。

【0003】

この従来技術は、薬液を収納した一対のエアゾール式容器と、この一対のエアゾール式容器を並列に隣接して収納する有底の収納ケースと、この収納ケースの上端開口部を塞ぐ形態でヒンジ結合され、下面に各エアゾール式容器の注出ノズルが密嵌入して突き当たる段付き孔と、上面に吐出口と、そして両段付き孔と吐出口とを連通させる案内路とを形成したガイド部材の前端に、収納ケースの外側の前下方に垂下した押動レバーを連設した可動カバーと、から構成されている。

【0004】

この従来技術にあっては、容器を掴持した片手の指で押動レバーを収納ケース側に押圧することにより、ヒンジ結合部を軸としてガイド部材を下降傾動させ、これにより一対のエアゾール式容器の注出ノズルを同時に押し下げて開放し、両エアゾール式容器の薬液を、段付き孔、案内路そして吐出口を経て、一緒に吐出するので、一つの押動レバーに対する簡単な押圧操作により、二つのエアゾール式容器の内容物を、同時にかつ一緒にした状態、すなわちそのまま使用することができる状態で吐出する、と云う優れた効果を發揮する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記した従来技術にあっては、吐出口を設けた可動カバーを収納ケースにヒンジ結合する必要があるので、その組付け構造が簡潔ではなく、かつ片側に対する力の作用による可動カバーの傾動下降により、エアゾール式容器の注出ノズルを開放するので、両エアゾール式容器の注出ノズルの押し下げ程度

の差が生じる場合があり、このため両エアゾール式容器から吐出される内容物の量が不均等となる、と云う問題があった。

【0006】

同様に、可動カバーの傾動下降によりエアゾール式容器の注出ノズルを開放するので、可動カバーの段付き孔と注出ノズルとの間のシールを確保するのが難しい、と云う問題があった。

【0007】

さらに、押動レバーは、撓み変形のしない硬質構造物であり、この硬質な押動レバーが容器の前方に突出位置することになるので、容器の取扱い時および格納時に、突出した押動レバーが邪魔となる、と云う問題があった。

【0008】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、容器を掴持した片手の指先の操作により、エアゾール式容器の注出ノズルを押し下げる部分を、単純にかつ安定して下降変位させるようにすることを技術的課題とし、もって内容物を注出する部分の姿勢を一定させると共に、強固で安定したシール性を確保し、さらに良好な取扱い得ることを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記技術的課題を解決する本発明の手段は、
頭部の上面中央に開閉機能付きの注出ノズルを起立させて構成され、左右に並列に隣接組合せされたエアゾール式容器である容器体の一対を有すること、
この容器体の一対の上端部に外嵌する外装筒の上端に連設された頂板の中央に、
容器体の注出ノズルが突出する開口部を開設すると共に、頂板の上面にガイド片を立設して構成され、容器体の一対の上端部に不動に外装する装着体を有すること、

容器体の注出ノズルが密嵌入して突き当たる一対の段付き孔を下面両側部に開設すると共に、上面中央に注出筒片を立設し、この注出筒片が形成する注出口と両段付き孔とを連通させる注出路を内部に形成した押圧ブロックを有し、この押圧ブロックの一部に、装着体のガイド片が上下に摺動変位可能に遊嵌するガイド孔

を開設すると共に、押圧ブロックの前後面の中央に、外装筒の外表面に沿って垂下する一対の垂下操作片を設け、装着体の外装筒の下面縁の一部である当接下縁に対向する垂下操作片の内側面箇所に、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面を装着体の外装筒の当接下縁に摺接させる摺接突片を突設した操作体を有すること、

この操作体が容器体の注出ノズルで押し上げられた状態で、装着体の外装筒の当接下縁に対向する摺接突片の傾斜ガイド面の箇所を、少なくとも上位に、容器体の注出ノズルを開状態とすることができる高さ分を有する位置に設定したこと、にある。

【0010】

並列に隣接配置された一対の容器体の上端部に、上方から装着体を不動に外装組付けし、この装着体を跨ぐ姿勢で操作体を組付けて注出容器の組立てを完了するが、操作体の組付けにより、装着体の開口部から突出した容器体の注出ノズルが操作体の段付き孔に密嵌入すると共に、装着体の外装筒の前後面の当接下縁に、操作体の両垂下操作片の摺接突片の傾斜ガイド面が当接する。

【0011】

この状態から、容器を掲持した片手の親指と人指し指とで、装着体の外装筒の当接下縁に対向している両垂下操作片の下端部を摘むように押圧すると、外装筒の当接下縁に当接している摺接突片の傾斜ガイド面の作用により、両垂下操作片が押圧ブロックと一緒に引き下げられ、これにより両容器体の注出ノズルが等しく押し下げられる。

【0012】

注出ノズルが押し下げられると、両容器体内から内容物が噴出され、噴出された内容物は両段付き孔から注出路を経て注出筒片内に進入し、ここで合流して注出される。

【0013】

両注出ノズルの押し下げ、すなわち操作体の押圧ブロックの引き下げは、この押圧ブロックの前後面中央部から垂下設された両垂下操作片の引き下がりによつて達成されるので、押圧ブロックは傾くことなく引き下げられ、これにより両注

出ノズルは同時に開放操作されることになり、また注出筒片はその姿勢を傾動変化させることがない。

【0014】

操作体の押圧ブロックは、両垂下操作片が押圧されない限り、下降変位しないので、不本意に片方の垂下操作片が押圧されたとしても下降変位せず、容器体の内容物を不都合に注出することがない。

【0015】

請求項2記載の発明は、請求項1記載の発明の構成に、装着体の外装筒の前後表面のそれぞれに、操作体の垂下操作片の両側に近接して位置し、突出端を、垂下操作片の外表面よりも外方に位置させる突出高さを有する縦突条状の一対の支え突片を設けた、ことを加えたものである。

【0016】

この請求項2記載の発明にあっては、操作体の垂下操作片を装着体の支え突片が左右から支える状態となるので、他の物品の垂下操作片に対する引っ掛けにより、操作体の姿勢が傾動変位するのを防止すると共に、容器が他の物品に前後から挟まれた状態となっても、この他の物品に対する支え突片の突き当たりにより、両垂下操作片が同時に押圧されるのを確実に防止する。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施例を、図面を参照しながら説明する。

エアゾール式容器である容器体19（図2、図3参照）は、細長有底円筒状とした金属製本体の縮径した口部に、弁による開閉機能部を備えた注出ノズル21を有する金属製のキャップをカシメ固定して頭部20を形成し、注出ノズル21は、この頭部20上面に起立した状態となっている。

【0018】

装着体1（図1、図2、図3、図5参照）は、並列に隣接配置された一対の容器体19の上端部に外嵌する長円筒状の外装筒2の上端に、開口部5を開設して内鍔状となった頂板4を連設し、この頂板4の下面の左右両端部に、容器体19の頭部20に外嵌して、頭部20直下の周溝部22にアンダーカット結合する、

略半円弧筒片状の嵌着筒状片6を垂下設すると共に、頂板4の上面の開口部5左右開口縁に、半円弧筒片状のガイド片7を起立設し、さらに外装筒2の前後表面の中央部に、縦突条状の支え突片3を間隔を開けて一対づつ設けて構成されている。

【0019】

この装着体1は、並列に隣接配置された一対の容器体19に、上方から被嵌状に組付けることにより、両嵌着筒状片6が容器体19の頭部20に強固にかつ不動に外嵌結合して組付き、注出ノズル21は開口部5から突出した状態となる。

【0020】

また、外装筒2は長円筒状となっているので、一対の容器体19に外装した状態では、その前後壁の中央部分と両容器体19との間に、両容器体19の隣接部に形成される谷状部により、空間が形成される。

【0021】

操作体8（図1、図2、図3、図4参照）は、下面の左右両端部に、注出ノズル21が密嵌入して突き当たる段付き孔11を開設すると共に、上面の中央に注出口を形成する注出筒片12を起立設し、内部に両段付き孔11と注出筒片12内とを連通する注出路10を形成し、さらに左右両端部に、ガイド片7が上下に摺動変位自在に遊嵌するガイド孔13を形成した押圧ブロック9の前後表面の中央から、一対の垂下操作片15を垂下設して構成されている。

【0022】

段付き孔11を注出ノズル21に装着した状態で、外装筒2の前後の下面縁である当接下縁に対向する両垂下操作片15の下端部の内側面には、上面を傾斜ガイド面18とした三角板片状をした左右一対の摺接突片17が、その傾斜ガイド面18の下端部を、外装筒2の当接下縁に軽く当接させて設けられており、この摺接突片17が設けられた垂下操作片15の下端部の外側には、指当て部16が肉盛り状に形成されている。

【0023】

両垂下操作片15は、操作体8が一対の容器体19と装着体1との組合せ物に組付けられると、一対の支え突片3の間に位置して、外装筒2に前後表面に沿つ

て垂下状に位置するが、この垂下操作片 15 の外面は、両側の支え突片 3 よりも外方に突出することはない。

【0024】

また、両垂下操作片 15 は、一対の容器体 19 と装着体 1 との組合せ物に対して操作体 8 が組付けられた状態で、摺接突片 17 の傾斜ガイド面 18 の下端部を外装筒 2 の当接下縁に軽く当接させて、この外装筒 2 の当接下縁に軽く係止した状態となっているので、この係止力が操作体 8 の組付きを保持することになる。

【0025】

そして、両垂下操作片 15 の摺接突片 17 は、外装筒 2 と一対の容器体 19 の間に空間が形成される、前後側の中央部分に位置するので、両垂下操作片 15 を摘まみ状に押圧操作した際に、摺接突片 17 は容器体 19 に突き当たることなく内方に変位して、両垂下操作片 15 を確実に引き下げる。

【0026】

なお、図示実施例の場合、押圧ブロック 9 は、注出路 10 の成形の都合から、上蓋状の本体部分と、この本体部分の下面側に密に嵌まり込み、一対の段付き孔 11 を開設した下蓋板片 14 とから構成されている。

【0027】

また、注出筒片 12 は短円筒状となっているが、この注出筒片 12 の構造は短円筒状に限定されることではなく、例えば細長円筒状であっても良く、さらには各櫛歯片に吐出口を設けた櫛体を組付けても良い。

【0028】

図 6 は、外装筒 2 に形成される当接下縁の他の実施例を示すもので、外装筒 2 の前後壁の中央部に、下半分を切り取って切欠きを形成し、この切欠きの上端縁を形成する部分を外装筒 2 の当接下縁としたもので、一対の容器体 19 の並列組付き姿勢を安定的に保持するために必要な外装筒 2 の長さを保ちながら、垂下操作片 15 の長さを短くすることができるようしている。

【0029】

【発明の効果】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項 1 記載の発明にあっては、一対の容器体に対する装着体および操作体の組付けは、単なる嵌め込みだけで達成されるので、その組付け構造が簡単となると共に、内容物の注出時に、両エアゾール式容器の注出ノズルが等しく押し下げられるので、両エアゾール式容器から注出される内容物の量が常に均等となり、これにより内容物の適正な注出使用を得ることができる。

【0030】

容器体の注出ノズルに対する押圧ブロックの姿勢が、内容物の注出時に変化することなく、段付き孔に対する注出ノズルの姿勢を常に一定に保持することができ、これにより注出ノズルとの間の強固なシールを安定して保持することができる。

【0031】

注出ノズルの開閉を行なう垂下操作片は、外方に突出することなく、容器体の表面に沿って位置するので、他の物品に引っ掛かることが少なく、また両垂下操作片が押圧されなければ、注出ノズルを引き下げることができないので、一方の垂下操作片が不本意に押圧されても、内容物は注出されず、これにより安全な取扱いを容易に得ることができる。

【0032】

請求項 2 記載の発明にあっては、支え突片が、両垂下操作片の姿勢を安定的に保持すると共に、他の物品に前後から挟まれた状態となつても、この他の物品に突き当たることにより、両垂下操作片が同時に押圧されるのを確実に防止し、内容物の不正注出の発生を効果的に防止する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施例を示す、使用状態の全体斜視図。

【図 2】

図 1 に示した実施例の、装着体と操作体を半縦断した正面図。

【図 3】

図 1 に示した実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体と操作体を半縦断した側面図。

【図4】

図1に示した実施例の、全体平面図。

【図5】

図1に示した実施例の、装着体と操作体との組合せ物の底面図。

【図6】

本発明の他の実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体と操作体を半縦断した側面図。

【符号の説明】

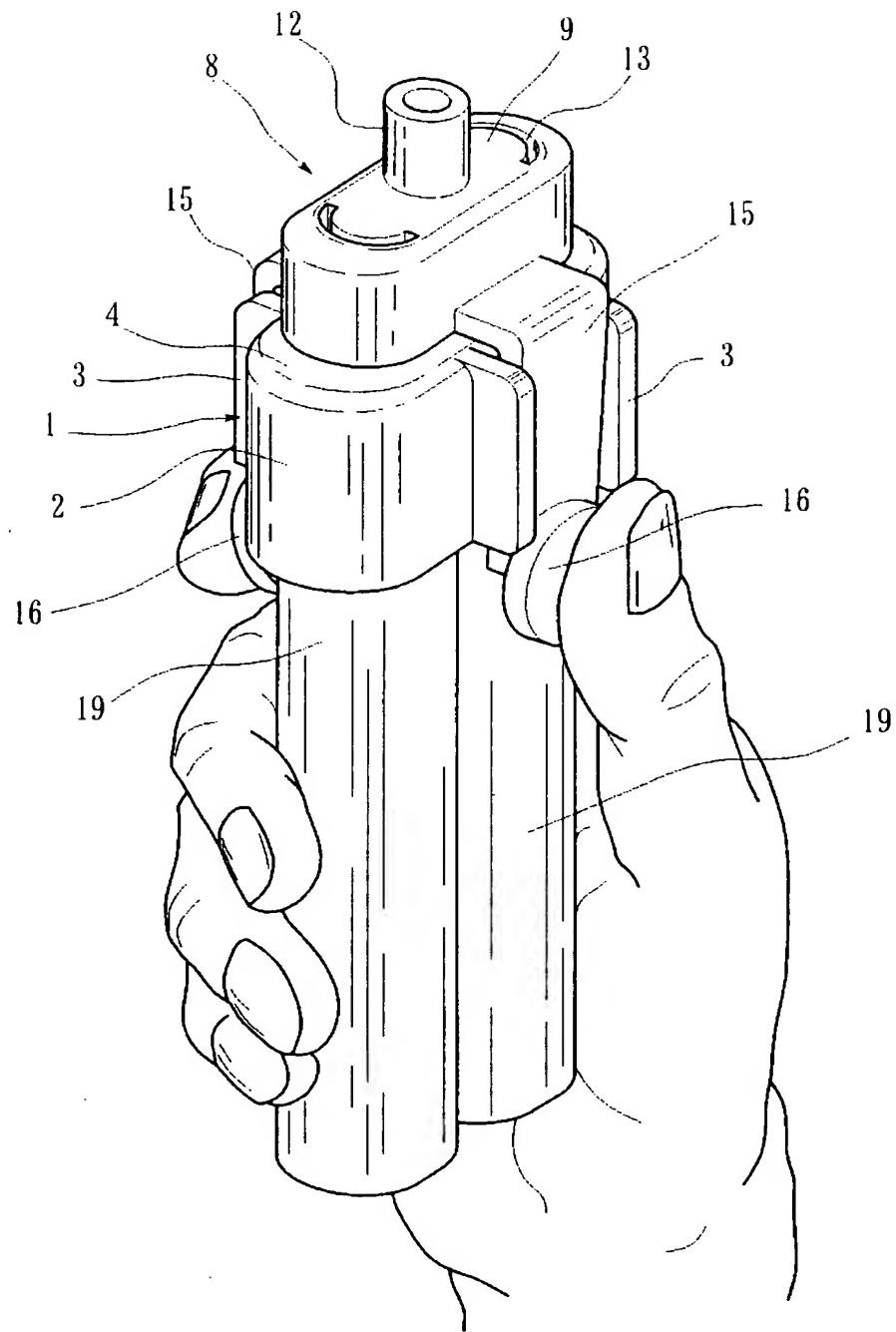
- 1 ; 装着体
- 2 ; 外装筒
- 3 ; 支え突片
- 4 ; 頂板
- 5 ; 開口部
- 6 ; 嵌着筒状片
- 7 ; ガイド片
- 8 ; 操作体
- 9 ; 押圧ブロック
- 10 ; 注出路
- 11 ; 段付き孔
- 12 ; 注出筒片
- 13 ; ガイド孔
- 14 ; 下蓋板片
- 15 ; 垂下操作片
- 16 ; 指当て部
- 17 ; 摺接突片
- 18 ; 傾斜ガイド面
- 19 ; 容器体
- 20 ; 頭部
- 21 ; 注出ノズル

22； 周溝部

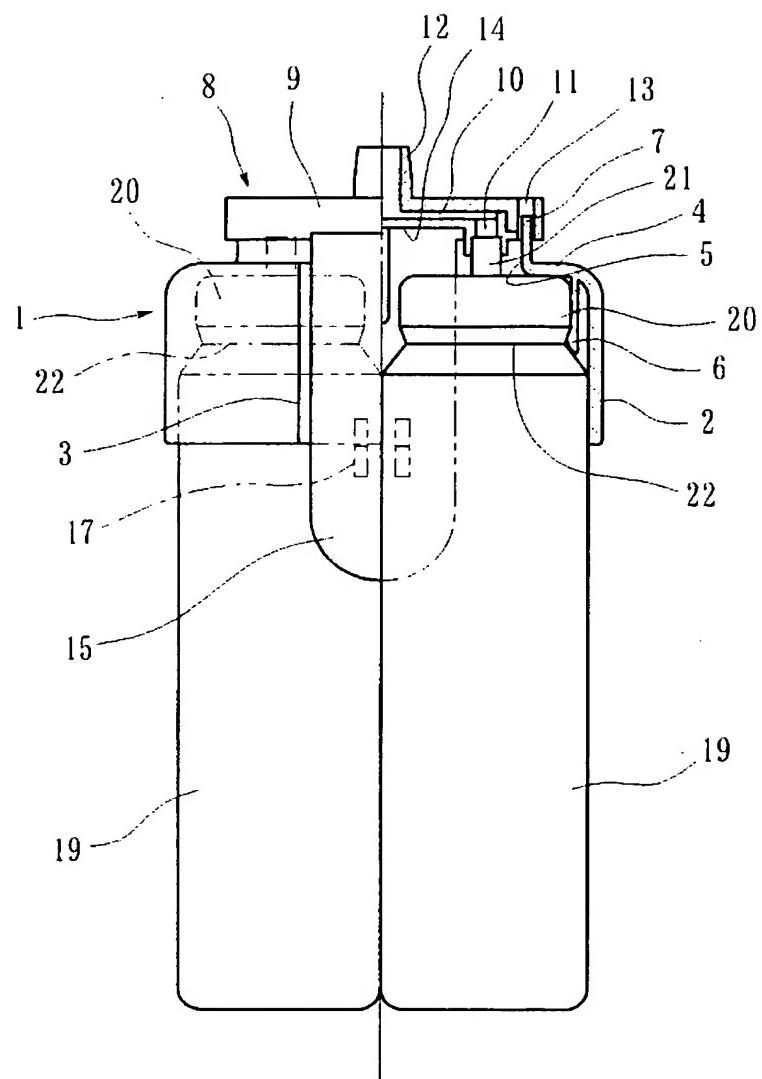
【書類名】

図面

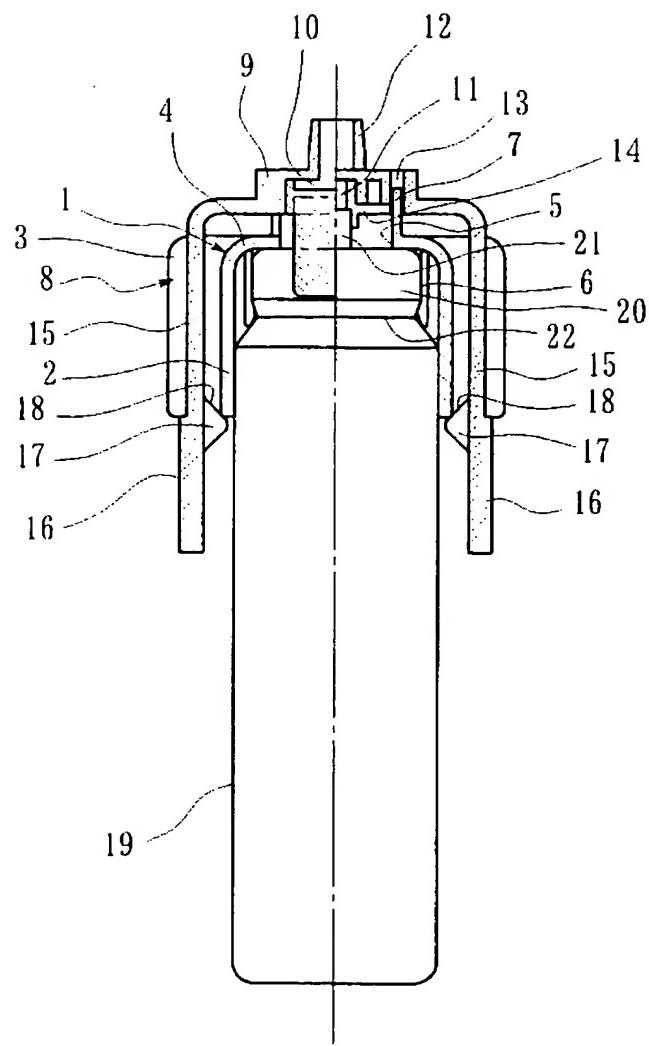
【図 1】



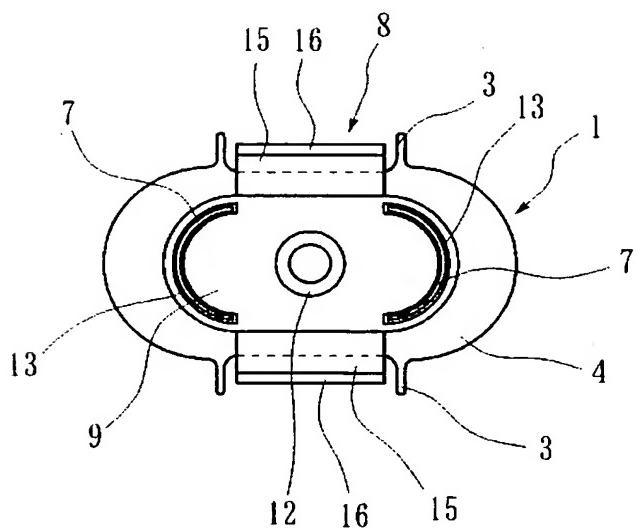
【図2】



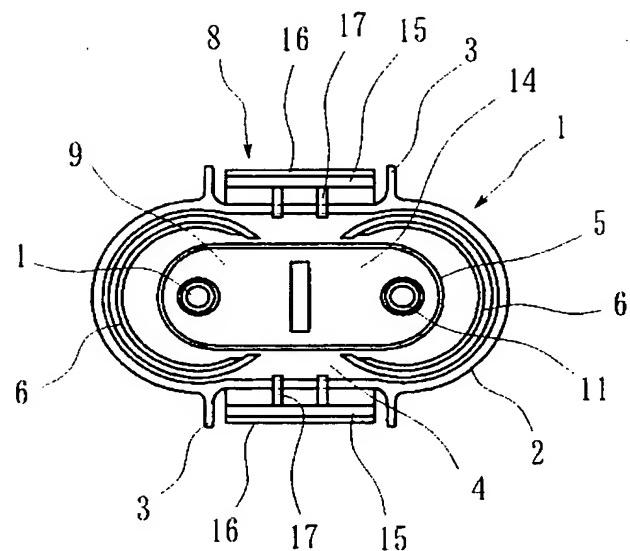
【図3】



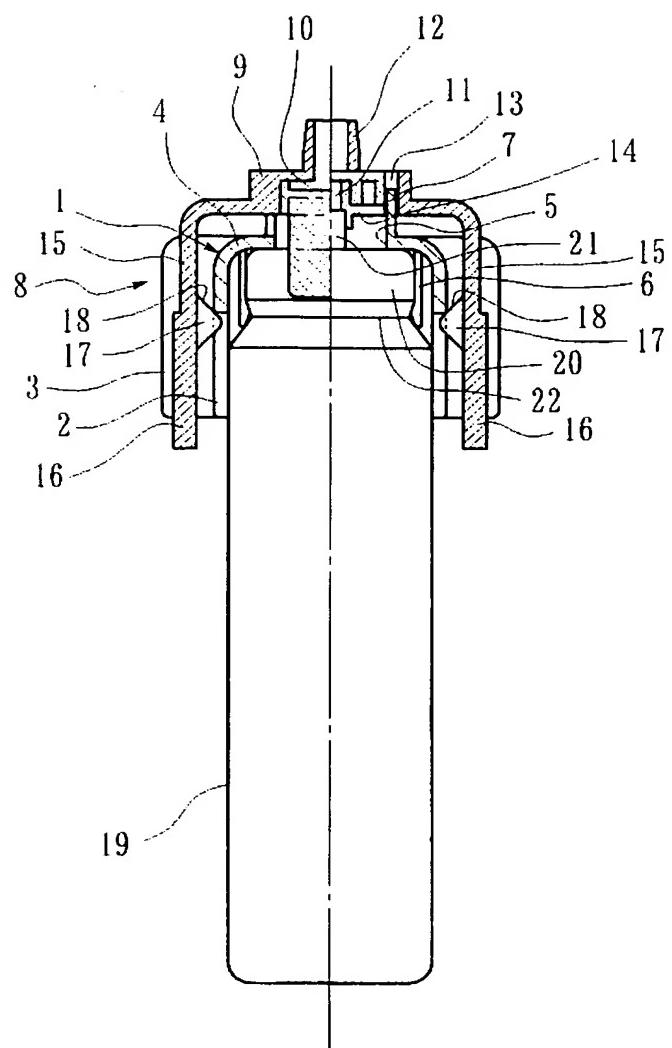
【図4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容器を掴持した片手の指先の操作により、エアゾール式容器の注出ノズルを押し下げる部分を、簡単に安定して下降変位させることにより、内容物注出部分の姿勢を一定させると共に、強固なシールを安定して維持し、さらに良好で安全な取扱い状態を得る。

【解決手段】 隣接配置された一対のエアゾール式容器体19と、一対の容器体19の上端部に外装体2を外装させると共に、容器体19の注出ノズル21を上方に突出させた装着体1と、注出ノズル21に組付いて注出路10を形成する押圧ブロック9に、指先による摘まみ状の押圧操作により引き下げ力を作用させる一対の巣か操作片15を垂下状に設けた操作体8とから構成し、三者の単純な嵌め込みにより組立てを達成すると共に、両垂下操作片15を押圧しなければ内容物を注出することができないようにして、安全性を高めた。

【選択図】 図1

特願 2001-193906

出願人履歴情報

識別番号 [000000952]

1. 変更年月日 2001年 1月 4日

[変更理由] 名称変更

住所 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
氏名 カネボウ株式会社

特願2001-193906

出願人履歴情報

識別番号 [000006909]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都江東区大島3丁目2番6号
氏名 株式会社吉野工業所